

「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

推進校実施報告書

1 学校名：埼玉県立上尾高等学校

2 実施日時：2019（平成 31）年 1 月 23 日（水）13：10～14：30

3 対象：全校生徒（約 1080 名）

4 実践形態：アスリートによる講演

5 派遣アスリート：辻 発彦 さん

（プロ野球 埼玉西武ライオンズ監督）

中川 充四郎 さん

（フリーアナウンサー）

6 授業内容：講演

2019（平成 31）年 1 月 23 日（水）に、埼玉県立上尾高等学校にて、プロ野球埼玉西武ライオンズの辻発彦監督をお招きしたオリ・パラ教育の実践が行われました。また、対談形式で講演を行うために文化放送において埼玉西武ライオンズ専属のコメンテーターを務められたフリーアナウンサー中川充四郎さんも一緒に登壇いただきました。当日は、辻さんと中川さんによる講演会に加えて、辻さんのサイン入り記念ボールのプレゼント抽選会が行われました。

講演会の始めに、校長先生から講師の辻さんの紹介に加えて、2020 年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けてオリンピック・パラリンピックやスポーツへの興味・関心を高めることの重要性など、本事業の趣旨についてお話しされました。

「人生に無駄はない」というテーマで行われた講演会では、辻さんが野球を始めてからプロ野球選手になるまで、そして現役を引退してから監督になるまでを振り返りながら、生徒達に伝えたいことをお話しされました。

中学生のときに体が小さかった辻さんは、高校進学の際に野球を続けるか悩んだそうです。しかし、好きで始めた野球だからと思い、高校でも野球部に入部し 3 年次にはキャプテンを務めるほど一生懸命野球に取り組みました。それでも全国大会には手が届かず、プロを目指していたわけではありませんでした。しかし、野球への情熱は衰えなかったことから、社会人チームのテストを受けて合格し、7 年間社会人リーグでプレーをしました。社会人時代は、腰の怪我を抱えていたことから、満足できるシーズンを送ることが難しいことが多かったそうですが、25 歳のときに西武ライオンズ（現在の埼玉西武ライオンズ）からドラフト指名を受けてプロ野球選手になることができました。

このようなご自身の経験を振り返りながら、辻さんは、夢を叶えるために大切なこととして、周りの人に支えられていることを自覚すること、とりあえずやってみて最後は自分で判断すること、そして何よりも強い意志を持つこと、の 3 つを伝えられました。さらに、高校時代には多くの経験をして知識を得ることが大切で、そのためには人に聞くだけではなく自分の目で見えて考えることに力を注いでほしい、とおっしゃられました。

また、辻さんは指導者の立場になってからは、特にプラス志向を意識しているそうです。例えば、辻さんはエラーをした選手に必ず前向きな声かけをするそうです。というのも、辻さんは、失敗を恐れずにチャレンジすることで成長できる、そして今回の失敗を取り返せるくらいの結果を次のチャンスに残してくれる、と信じているからだそうです。さらに、監督として難しいと感じることについては、基本的には楽しいと感じているが、監督はチームの最高責任者だから、選手だけではなくコーチも育てなければならないと考えており、それゆえに悩むことも多いそうです。しかし、基本は自分の目で見て判断することを大切にしている、ということでした。

質疑応答では、監督として大切にしていることは何か、高校時代はどのような生活をしてきたのか、内野の守備が1番うまいと思うプロ野球選手は誰か、などの質問が出ました。特に1つ目の監督として大切にしていることは何か、という質問では、改めて自分の目で選手やコーチの練習等の姿を「見る」ことの大切さを強調しておられました。

サイン入り記念ボールの抽選会では、辻さんがクラス番号と出席番号の数字の書かれたクジを引いて、当たった生徒が壇上に上がって辻さんから直接ボールをプレゼントされました。埼玉西武ライオンズのファンの生徒もたくさんいたことから、番号が読み上げられるたびに歓声があがっていました。

最後の代表生徒挨拶では、辻さんのお話を受けて、強い意志をもってこれから頑張っていきたいと力強い言葉で感謝の気持ちを伝えている姿が見られました。辻さんも最後に、今日の講演での出会いを大切にしたい、そして講演で話したことを少しでも記憶に留めておいてほしい、とメッセージを送られました。

7 講演の様子



【校長先生による講師紹介】



【対談の様子】



【当選した生徒へのサイン入りボールの授与】



【代表生徒への実技指導の様子】